九州ルーテル学院報 Luther No.12

新年のごあいさつ

理事長　福田　邦子

あけましておめでとうございます。

九州ルーテル学院は、一昨年創立九十周年を迎えましたが、震度七の地震が二度も襲うという熊本地震が発災し、熊本は大変な年になりました。本学院は、幸いにも人的被害はありませんでしたが、校舎や施設など大きく被災しました。ただ、多くの方々のご支援で従来通りの授業が行われていることは大きな喜びです。地震発災から二年目を迎え、熊本も本格的な復旧復興のステージに入ってきました。蒲島郁夫県知事は、「創造的復旧復興」さらに「ビルドバック　ベター」と唱えておられます。地震の前よりもさらに良い夢のある復旧復興をということでしょう。

本学院は、一昨年創立九十周年を、昨年は大学創立二十周年を迎えました。また、一九四八年に開園したルーテル学院幼稚園は二年前に認定こども園となり、今年創立七十周年を迎えます。

我が国の少子化が進む中、学院経営の環境は益々厳しくなっています。このような状況の中でいかに魅力的な学院にしていくかは大きな課題です。今年、創立九十二年目を迎える学院では、老朽化した施設を今後どうするのか、高大連携をどのように進めるのか、こども園、大学附属黒髪乳児保育園の運営など問題は山積しています。私立学校への公的助成が年々削減される中、理事会としては途方に暮れる思いです。こういう時こそ、関係者の衆知を集め、教職員一同心を一にしてこどもたちの未来のためにも学院を支えていかなければならないと思っています。

今年も皆様には尚一層のご指導ご協力をお願いして新年のごあいさつといたします。

創立の精神への思い

院長　内村　公春

昨年、大学は開学二十周年を迎えました。県内唯一のキリスト教主義大学として、一人一人を大事にする少人数教育を通し、地域に根差した大学へと成長してきました。

しかし、その道のりは決して平坦なものではなく、経済状況の悪化、少子化の進行等々、私立学校を取り巻く情勢は厳しく、大学としての歴史の短い本学にとり、いくつもの試練がありました。そうした中で、歴代の学長を中心に、より良い教育環境を目指し努力が重ねられたのです。

さらに、一昨年の二度の熊本地震は、本当に辛く厳しい試練でした。県下に大変な被害をもたらした地震でしたが、本学でも例外ではありませんでした。建物だけをみても、校舎の損壊、教職員・学生の住居の全壊、半壊等の大変な被害を受けたのです。

しかし、全国各地からのご支援やお見舞いにより、校舎も思いの外早く復旧し、授業も再開できました。また、特筆すべきは、こうした状況下、避難所となった場所での教職員や学生、卒業生、保護者の方々によるボランティア活動がなされたことです。またこうした出来事は、創立の精神である「感恩奉仕」を胸に刻み付けることともなりました。

節目の年、これまでの歩みを神様に感謝し、地域に支えられる学院としてより良い教育を目指し努力を続けたいと思います。

Contents

大学創立20周年記念特集 …… 2～3
大学生の活躍 …… 3
黒髪乳児保育園だより …… 4
こども園の今 …… 5
中高国際交流 …… 6
高校女子駅伝　熊本から全国へ …… 7
入試日程ほか …… 8

大学創立20周年記念特集

「感恩奉仕」を受け継いで

学長　広渡　純子

九州ルーテル学院大学は、多くの有能な人材を輩出してきた九州女学院短期大学を改組転換し、1997年に男女共学の四年制大学として新たなスタートをしてから、昨年で創立20周年を迎えました。

人文学部人文学科の一学部一学科で始められた体制は、その後、心理臨床学科の開設、大学院（人文学研究科障害心理学専攻）の設置など時に応じて改編され、現在は「英語」「教育・保育」「心理」の3つの専門領域をもつ熊本で唯一のキリスト教主義大学として地域の教育の大切な一翼を担っています。

本学の20年の歩みを振り返る時、数々の危機や困難をチャンスに変え、私たちにバトンを繋いでくださった先達たちの熱い祈りと献身を忘れることはできません。私たちもまた「感恩奉仕」の精神を受け継ぐ者として、歴史の始まりの時から変わることなく共に歩んでくださる神さまの導きのもと、新しい一歩を力強く進めてまいります。

さらなるご支援をよろしくお願いいたします。

清重尚弘名誉院長・学長による説教

聖歌隊とハンドベルチームによる讃美

―大学創立20周年を迎えて―

1期生 坂口　裕俊

私は20年前に縁があり大学1期生として、この坂道を不安いっぱいで、登り始めました。

そこにはたくさんの「初めて」がありました。九州女学院短期大学の先輩から引き継いだ、初めての男子学生。今では自分のライフワークともなっているボランティア活動、その1歩目は、必修科目だった「ボランティア体験学習」です。さらに自分の価値観を180度変えたエルサレムでの「異文化圏体験」。その後初めての大学卒業の職員として入職しました。

20年はあっという間です。初めての体験をしながら、人生の半分以上をこの母校で過ごしている喜びと、後輩のために仕事ができていることに毎日生きがいを感じています。さらには娘と息子も学院で育っています。

私にとって、この学院は母校以上の存在になっており、私の心情、生きる信念もこの学院と共に成長していると感じています。大学の開学と一緒に過ごして行く人生を、これからも感謝の気持ちを持ち、学院をしっかり支えていけるように努力していきたいです。

2006年
大学認可報告会にて
石田順朗元学長の挨拶

大学創立20周年記念事業
-「世界の子どもの本展」と「巡回講演会」-

JBBY事務局のご支援のもと、11月1日から5日の日程で開催されました。県内の各市町村をはじめ九州の各県からも足を運んで頂き、5日間の来場者数は、約280人となりました。本は、すべて手に取って読むことができるとあって、来場者は本の感触を確かめながら思い思いの時間を楽しんでおられたようです。

「国によって貧困の差はあるけれども、こどもの本はどこの国でも出版されているんだね、でも紙の質はそれぞれだね」と、小さなお子さんに話しかけられているお母さんの言葉が特に印象的でした。同時に開催した本学の保育コースの学生による読み聞かせは、学生自身にとっても学びの機会となったようです。

12月22日（金）、大学の創立20周年を記念し、記念クリスマス礼拝と記念感謝会を行いました。記念礼拝での、聖歌隊による讃美や聖書朗読に合わせて奏でられるハンドベルの厳かな音色は、クリスマスを待ち望んでいた出席者の気持ちを魅了し、記念日にふさわしいものでした。

また、式中では『記念、そしてクリスマス』と題して、名誉院長･学長の清重尚弘氏による説教を頂きました。一同は、創立そして本学の充実･発展にご尽力を頂いた方々に思いを馳せながら、現役当時と変わらない迫力あるお言葉に聞き入っていました。

午後6時からは、メルパルク熊本において、この20年を支えて頂いた学院関係者や現場で働く方々への感謝を込めて感謝会を催し、約200名の方々にご出席を頂きました。感謝会には、初代学長石田順朗氏の奥様のグロリア・バウアー氏をはじめ、歴代の学長、前理事長、旧教職員など懐かしい顔ぶれも揃い、思い出話や久しぶりの再会を喜び合うなど、会場のあちらこちらで歓談の風景がありました。

この20年の歩みの中で、多くの皆さまから頂いたご支援やご協力に感謝しつつ、「キリスト教に基づく人格教育」をこれからも育んでいきたいと思います。

『聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト2017』で、プレゼンテーション賞』を受賞しました！

他大学からの質問を聴いています

第13回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム（2017年10月28日･29日，会場校：札幌学院大学）に、人文学部心理臨床学科3年の村里栞さん、同学科2年松本そらさん、坂口学生支援センター課長代理、心理臨床学科佐々木准教授が参加しました。その中で行われた「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト2017」には、全国19大学からエントリーがありました。本学は「手話サロン」「手話カフェ」等の取り組みについて、手話、音声、PCテイク等の手段で発表し、初出場ながらプレゼンテーション賞をいただきました。

審査基準は、「大学の特徴や資源を上手く活かしているか」「聴覚障害学生のニーズ（要望）をよく捉えたものか」「全ての参加者に伝わる発表方法、コミュニケーション手段を使っているか」等の6項目で、審査方法は、シンポジウム参加者の投票でおこなわれました。終了後、本学の発表は「学生と教職員の連携がよくとれていた」とコメントをいただきました。

盲ろうの参加者に触手話で説明中

「山鹿灯篭」を英語でプレゼンし、3位に入賞！

12月17日、京都外国語大学において開催された第11回 森田杯・英文毎日杯「ペアで紹介する日本文化プレゼンコンテスト」において、全国から応募した中から選抜された10組の大学生が地域の日本文化について、英語でプレゼンテーションをしました。

どのプレゼンテーションも秀逸で、競技は白熱する中、本学から参加した、3年生の八谷知美さんと、角口郁実君が「山鹿灯篭」を紹介し、見事三位に入賞しました。

ちなみにこのお二人は、2016年KLCの「ムラサキスポーツ奨学金」の支援を得て、2年次の8月から12月までイギリスで英語力を磨きました。

https://www.kufs.ac.jp/news/detail.html?id=uBtTjWVo

～保育コース主催「こどもフェスティバル」を開催しました♪♪～

2017年10月28日（土）こども専攻保育コース主催「こどもフェスティバル」を本学チャペルにて開催しました。フェスティバルでは、3年生が、脚本、衣装、音楽、小道具、大道具などすべてを手作りし、「まほう幼稚園～雨をぬすもう大作戦～」と「ぼくたちの宝物～ゆめの島への大冒険～」の2つのオペレッタを発表しました。

また、1年生、2年生によるダンス、手遊び、壁面製作もあり、それぞれの学年がこれまでの学びの集大成を存分に発揮したものとなりました。

そして、大学付属黒髪乳児保育園の子どもたちも可愛らしいダンス、歌などを披露してくれ、会場は大盛り上がりでした。当日はあいにくの雨模様となりましたが、多くの方々にご来場いただきました。

ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。また来年もぜひお越しください。

英語キャンプ in なごみ

和水町(熊本県玉名郡)で、今回で2度目となる小学生対象の英語キャンプを9月16日（土）に行いました。当初は、9月16日から17日の2日間の予定でしたが、台風18号の接近のため急遽1日に短縮しての実施となりました。

活動では最初にアイスブレイクとしてアクストン准教授による体を使っての英語ゲームで盛り上がり、その後、低学年、中学年、高学年の3つのグループに分かれて英語に楽しくふれる活動を行いました。

こども英語指導者資格や小学校教員免許取得を目指すボランティア学生たちが、工夫を凝らした教材を準備し、英語の歌やゲーム、英語絵本の読み聞かせなど英語にふれる活動を行い、こどもたちは楽しく英語を学ぶことができた一日となりました。

黒髪乳児保育園だより

42名のこどもたちと、保育園みんなのえがおがあつまった運動会!!

勤労感謝訪問・・いつもありがとう♡♡

団子汁会・・・3歳児さくら組のおともだちが収穫したさつまいもと、黒髪校区のみなさまと丸めた団子をつかって団子汁の出来上がり。

地域の方々の温もりと、美味しさいっぱいの団子汁を食べて、心も体もほっかほっか!!

発表会♪♪かわいいサンタさんの登場です☆

こども園の今

★味噌作り

こども園になってから、給食だけでなく保育活動の中に『食育』を取り入れ、畑の土作りや野菜作りなどにも力を入れるようになりました。

1学期は、家庭から園児が生ごみを持ち寄り、畑の土に微生物を混ぜる作業を行い、自分たちが作る野菜の育ちを通して、子どもたち自身の体が作られていることを学びました。2学期は、『味噌作り』にも挑戦してみました。味噌作り指導をしてくださった（よかあんばいジャパン）の方々のやさしい手ほどきで、40キロの味噌を年長児が作りました。現在、厨房で熟成中です。3学期のだご汁会でその出来栄えを親子で体験する予定です。

★２学期の園児たち

自然界が秋の色を濃くし、学院のイルミネーションが点灯する頃、子どもたちは北風の中でも元気いっぱいでした。

保育の中では毎日のように周辺の公園・坪井遊水地、そして立田山まで足をのばし、とにかく歩きました。3歳は3キロ、4歳は4キロ、5歳は5キロと“年齢分だけ歩ける足を！”を目指して秋の自然を満喫した園児たちです。

小さな手で握ったどんぐりや椎の実を『ママにおみやげ』と大事そうに持ち帰ったり、友だちとの会話を弾ませながらも急な斜面を逞しく歩き通す毎日でした。登園したら公園や山を目指して、自然に歩く距離を伸ばしていった晩秋。

車社会の中で育つ子どもたちは、歩くことや斜面のぼりが極端に不足しています。そんな中で毎日の山歩きを繰り返し、日々の保育計画を進めていくことで、子どもたちの意欲や活気の違いを感じた2学期でした。例年よりも、風邪などでの欠席が少なかったのは、給食時に毎回食べていた「いりこ」のせいもあったかもしれませんが・・・・。

★うまごやのおくりもの

例年のことですが、12月の子ども園は「クリスマス礼拝とお祝い会」を行って2学期を終わっています。

発表会ではなく、クリスマス礼拝の中で『降誕劇』を年長児が捧げることにこだわってきました。

今年も、聖書に忠実に馬小屋でのイエス様誕生の出来事を49名の年長児が演じました。

聖劇でのわが子の出番にドキドキしながらも、年長として成長した子どもたちの姿に引き込まれ、感涙のまなざしで見てくださる保護者の方の姿が印象的でした。

クリスマスの意味をペイジェントとして、70年間受け継がれてきたこの保育を、これからも大切に継承していきたいと思います。

全国へ ー

陸上部監督　吉田　謙

11月4日に行われた第33回熊本県高校女子駅伝では、多くのご声援本当にありがとうございました。15回目の出場で念願の初優勝をすることができました。この優勝は、これまでの歴史を築いてくれた陸上部の卒業生、そして私の指導についてきてくれた現部員たちの力が一つになってたどり着いたものだと思っています。また、多くの方から応援をしていただけるチームに成長してくれたことを本当にうれしく思っています。

全国高校女子駅伝出場メンバーと吉田監督

ようこそルーテルへ！ ~中高国際交流~

インマヌエル

オーストラリアのアデレードにある姉妹校インマヌエルカレッジから訪日研修団が2017年10月２日（月）から８日（日）まで来校しました。ルーテル学院での滞在期間中は、生徒の家にホームステイをしながら日本での日常生活を体験し、学校に通い、学校では授業に参加して生徒達と交流をして親交を深めたり、華道や茶道の授業を受けたりしながら、とても充実した日々を過ごしていたようです。また、校外への小旅行では、熊本城や刀鍛冶の見学、天草観光などにも出かけ、インマヌエルの生徒達は楽しみながら貴重な時間を過ごし、熊本を満喫しているようでした。滞在期間は１週間と短い時間ではあったものの、両校の生徒達はすっかり打ちとけて、インマヌエルの生徒達が帰国する際、空港ではお互いに別れを惜しんで、再会を約束している様な光景を見ることができました。

韓国・新興（シヌン）

2017年6月15日、2011年よりルーテル学院中学・高校と交流校である新興高校の研修旅行団が本校を訪問しました。生徒・教職員合わせて約350名の旅行団は午前10時に来校し、体育館でルーテル学院高校1・2年との交流の時間をもちました。礼拝後、両校の校長と生徒代表による挨拶、それぞれの出しものが発表される中、互いの言葉を学んでいる生徒たちは相手の言葉で良いメッセージを伝えてくれました。

テコンドーを披露する韓国・新興（シヌン）高校の生徒たち

東ティモール

11月22日（水）、東ティモール民主共和国から訪問団（生徒4名、引率者2名）が来校しました。午前中は、校内見学と書道・茶道等の体験学修、本校中学1年生との昼食を一緒に摂りました。午後は、中学1年生の音楽、理科の授業に参加し、その後『交流会』を持ちました。

『交流会』では、お互いの挨拶・紹介の後、合唱や踊りを披露したりして楽しい時間を過ごしました。お土産に戴いた伝統的な織物の“タイス”は、中高本館事務室横の姉妹校等交流掲示板に展示しています

タイス

一高校女子駅伝　熊本から

● 応援ありがとうございました ●

12月24日(日)10時より、京都の西京極総合運動公園陸上競技場をスタートして『女子第29回全国高等学校駅伝競走大会』が開催されました。飯田怜主将をはじめとする本校の選手らは、初出場のプレッシャーを跳ね除け、初陣を16位で飾りました。

当日は、応援バスで学院関係者らが駆けつけ、冬の京都にルーテルの赤いタオルが揺れました。また、地元の県人会の方々もベンチに駆けつけてくださり、男子チームの九州学院関係者と共に、活気ある応援を頂きました。

さらに学内では、中高礼拝堂にてパブリックビューイングが開催され、野球部等の部活生や保護者、教職員らが集い、全力で戦っている選手に向けて声援を送りました。

みなさまの温かい応援と励ましに 心より感謝申し上げます。

陸上部監督　吉田　謙

まず、はじめに、たくさんの応援・ご支援本当にありがとうございました。

この全国大会では、初出場、初入賞を目指して取り組みました。正直、この結果には満足していません。しかし、色んな事を考慮すると16位は頑張ったのかな、とも思います。出場して初めて得るものもありました。新たな目標も見つかりました。

全国の舞台で走れた事に感謝をし、また新チームで挑戦したいと思います。

あらためて、応援して頂いた方々に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

Ｓ３　飯田　怜（4区）

目標にしていた入賞はできませんでしたが、最後まで粘るレースができて、ずっと憧れてた舞台で自分の力を出し切ることができました。たくさんの応援ありがとうございました。

Ｓ３　岡本　佳奈絵（2区）

チーム貢献の走りは出来ませんでしたが、全国を走れてとても楽しかったです。このチームでこの舞台に立てて、本当にいい経験になりました。たくさんの応援ありがとうございました。

Ｓ３　矢田　みくに（1区）

全国をチームで走れる喜びを感じ、チーム全体が成長できた試合だと思いました。私はイメージの走りと違い悔しいおもいをしたけど強くなりたいと思えた試合でした。応援ありがとうございました。

Ｓ２　黒田　澪（5区）

入賞には届きませんでしたが、みなさんの応援が力になりました。また来年、都大路の舞台に戻ってこれるよう頑張ります。

Ｓ２　岡本　亜依里（3区）

たくさんの応援ありがとうございました。来年また、成長した姿で都大路に帰ってこれるように頑張ります。

中高礼拝堂でのパブリックビューイング

◆　2018年度入試の日程について　◆

九州ルーテル学院大学　＊詳細については、大学HPまたは☎096-343-1600までお問い合わせください。

入試区分	出願期間	試　験　日	合格発表
一般Ⅰ期・帰国生及び 私費外国人留学生・編入学	１月15日（月）～１月26日（金）	2月3日（土）	2月15日（木）
センター試験利用	１月31日（水）～２月８日（木）	本学独自の試験は行いません	2月21日（水）
一般Ⅱ期	２月16日（金）～２月23日（金）	3月3日（土）	3月13日（火）

ルーテル学院高等学校　＊詳細については、HPまたは☎096-343-3246までお問い合わせください。

	出願期間	学力試験・面接	合格発表
専願・奨学	１月10日（木）～１月17日（水）	1月23日（火）	1月26日（金）
一般	２月２日（金）～２月９日（金）	2月15日（木）	2月19日（月）

※土・日・祝日を除く午前9時～午後4時まで

ルーテル学院中学校　＊詳細については、HPまたは☎096-343-3246までお問い合わせください。

	出願期間	学力試験	合格発表
一般前期・奨学後期	ー「一般前期」、「奨学後期」入試は終了しましたー		
一般後期	1月17日（水）～2月1日（木）	2月3日（土）	2月3日（土）

※土・日・祝日を除く午前9時～午後4時まで

ルーテル学院幼稚園　＊詳細については、幼稚園HPまたは☎096-343-3968までお問い合わせください。

願書受付	面　　接
受付中	願書受付時にお知らせします。

教育環境整備寄付金のお願い

九州ルーテル学院は、多くの皆さまのお支えにより、建学の精神である「感恩奉仕」のもとに「キリスト教の精神に基づく人格教育を行うキリスト教主義学校」としての存在感を高めてきました。

今後も教育力をさらに充実させ、それにふさわしい施設を整えたいと存じます。

つきましては、皆さま方の篤いご支援ご協力を、切にお願い申し上げます。

～今後の学院の施設整備計画～

1. 施設内のトイレ整備（ウォシュレット付き洋式トイレへ）
2. 学院食堂の整備
3. 図書館書架の増設　　等

写真は新しくなった学院会館のトイレ

なお、本学院への寄付金は、税の減免措置を受けることが出来ます。

本学の WEB サイト（下記 URL ご参照）から、リンクしている寄付受付画面（F-REGI 寄付支払い）にパソコン・携帯電話・スマートフォンなどからアクセスし、時間、場所を問わず、クレジットカードを利用して寄付することができます。

その他、コンビニエンスストア・Pay-easy を利用した寄付を行うこともできます。

詳しくは、九州ルーテル学院　公式 WEB サイト（URL）**http://www.kluther-gakuin.jp/**　または、直接学院までお問い合わせください。

Luther
九州ルーテル学院報
No.12

発　　行　学校法人　九州ルーテル学院
発 行 日　2018年１月19日
編　　集　九州ルーテル学院報編集委員会
印　　刷　㈱新生社印刷　熊本支店

ご意見・ご感想は編集委員会まで

〒860-8520
熊本市中央区黒髪3-12-16
TEL.096-343-3111
shomu@klc.ac.jp